

平成 22 年 8 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2007～2009
 課題番号：19592535
 研究課題名（和文） 健康な子どものためのプリパレーションプログラムに関する研究
 研究課題名（英文） Children's Health Management Preparation Program
 研究代表者
 木内 妙子 (KIUCHI TAEKO)
 東京工科大学・片柳研究所・教授
 研究者番号：50279775

研究成果の概要（和文）：本研究は、健康な子どものためのプリパレーションプログラムを求めることを目的として実施した。主な内容は①約 50 人の保育士・母親を対象にした子どもの健康に関する実態調査と分析。②健康な子どものためのプリパレーションに関する知識の普及を目的としたシンポジウムの開催。③プリパレーションツールとしての絵本の調査、の 3 点である。本研究は 3 年間で完結を見るには至らず、今後も継続して取り組んでいく予定である。

研究成果の概要（英文）：This study aims to establish a children's health management preparation program. The 3-year research was carried out from 2007 to 2010.①We conducted semi-structured interviews with about fifty nursery nurses and mothers raising preschool children. The actual objectives of the study are to grasp and analyze the current situation of children's health management, then to narrow the focus of problems, finally to extract contents for a preparation program. The data were analyzed in a qualitative and inductive way.②Accordingly, a symposium was held for child-raising mothers in order to give them the outcome of the study.③Aiming to create a program for children's voluntary participation in medical treatment, at present we engage in analyzing picture books as an effective tool, also the results of the study have been still being carefully analyzed regarding how mothers teach healthy lifestyle habit to their children. The study has not yet concluded, so we are still going to working on it.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2008 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：子ども(Children),子育て(Child-Raising),母親(Mother),健康(Health),

健康教育(Health Education),プリパレーション(Preparation),予防接種(Vaccination),地域(Community)

1. 研究開始当初の背景

急速に少子・高齢化が進行するわが国において、次代を担う子どもたちの健やかな成長を支える社会づくりは急務の課題である。厚生労働省などが2000年に策定した「健やか親子21」では、主要4課題のひとつとして「小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備」をあげ、子どもの入院環境や家族のための体制整備・入院児の教育の問題なども取り組むべき課題とした。これを背景に、アドボカシーに代表される子どもの最善の利益の保障、プリパレーション、インフォームドアセントなどに積極的に取り組む機運が生まれている。しかし、2006年3月の「健やか親子21」中間評価報告では、病児支援の整備は未だ不十分であり今後環境整備を推進していく必要性が述べられている。

また、小児医療の場で急速に普及しているプリパレーションなどの概念は、地域社会・なかでも子育て中の母親・家族への認知度は十分とはいえない。安心して子どもを産み育て、病気になった時には子どもとその家族が心理的な混乱をすることなく、望ましい環境の中で治療を受けられるような支援対策は不可欠である。しかし、日本の地域の健康づくりに関しては高齢者に偏重しており、子ども・子育てに関して十分なサポートが行われていないのが現状である。さらに、わが国では伝統的に病気や医療への参加をネガティブにとらえる傾向があり、子どもに対しても注射などの医療行為や入院を罰として伝えがちである。未来を担う子どもの健やかな発育や疾病からの早期回復のためには、地域における家族を含めた健康教育・包括的な育児支援が欠かせない。

2. 研究の目的

本研究では前述の背景を踏まえ地域における子育て支援の一環として、健康な子どものためのプリパレーションプログラムのあり方を求めることを目的とした。

(1) 地域の子どもと親の健康管理や病気についての認識、対処行動、健康に関する価値観、保育士や幼稚園教諭の健康問題に関する認識と行動などについて実態調査を行う。

① 子育てをしている母親（専業主婦）の子どもの健康・病気に対する認識を明らかにする

② 子育てをしながら働く母親の子どもの健康・病気に対する認識を明らかにする

③ 保育士・幼稚園教諭の子どもの健康と病気に関する認識を明らかにする

(2) 実態調査の分析を踏まえ海外の先進的な取組などをモデルとし、わが国において実践可能な子ども・家族のための健康・病気に関する支援プログラム＝具体的には「体の免疫機能と予防接種の受け方」の開発を行う。

(3) 開発したプログラムの有効性について保育園・幼稚園等で検証する。

3. 研究の方法

(1) 地域で子育て中の母親、保育士・幼稚園教諭の子どもに対する健康管理の現状と問題点の焦点化、プリパレーションプログラム内容の抽出を行う。子どもと親の健康管理や病気についての認識、対処行動、親から子へと伝承されている健康に関する価値観について実態調査を行った。

・ 研究デザイン：

帰納的・質的研究、記述的研究

・ 研究対象者：

① 1～6歳の幼児を子育て中の母親

② 在就労中の保育士や幼稚園教諭

・ データ収集方法：インタビュー調査、インタビューガイドに基づいた半構成的面接法とする。

(2) 対象者の語った言葉をすべて逐語録としてデータとする。データをフィールドノートにまとめ内容ごとに分類整理しカテゴリー化し、質的に分析した。

① 調査結果から、子どもの周囲の大人がどのように医療に関する情報を伝えているか実態を整理し問題の焦点化を行った。

② 子ども心理的準備・主体的な医療参加のために必要な要素の抽出を行った。

③ 抽出された要素をカテゴライズし、子どもや母親に必要な情報の構造化を行った。

(3) 研究成果を保育士や地域で子育て中の母親に還元することと、健康な子どものためのプリパレーションに関する知識の普及を目的としたシンポジウムを実施した。

(4) プリパレーションツールとしてのわが国の絵本の出版状況に関する調査と分析を実施した。

(5) 前年度の研究成果を学会発表・論文投稿。

4. 研究成果

3年間の研究期間中、およそ50人の保育士・子育て中の母親を対象に、調査を実施。子どもに対する健康管理の現状と問題点の焦点化、プリパレーションプログラム内容の抽出を目的とし、半構成的面接によ

って得られたデータを質的帰納に分析した。また、分析結果を踏まえてシンポジウムを開催、プリパレーションツールとしての絵本分析を行った。

(1) 2007 年度の成果

子どもと親の健康管理や病気についての認識、対処行動、親から子へと伝承されている健康に関する価値観などの把握を実施。保育士を対象にした、子どもの病気やけがの場面でどのような説明や対応を行っているかを明らかにする目的の調査では、保育士は言語的な説明だけでなく、非言語的な対応を効果的に用いていた。一方で、年少児や周囲の子どもに対しては十分な説明や対応が行われていなかった。さらに、保育士に対して、子どもの健康観についての調査を実施した。「からだの健康」や「こころの健康」だけでなく、「遊ぶ力」が重要視されており、実践では「健康的な食習慣のしつけ」に力が注がれていた。しかし、子どもの健康づくりは各々の保育士の価値観や過去の経験から実践され系統的な介入にはなっていなかった。山間部に居住する母親へ同様の目的で実施した調査では、「病気の子どもの説明・声かけ」で、子どもはわからないなどの理由で全く説明をしていない母親がいる一方、丁寧な説明をしている母親でも、受診前の子どもの『嘘をつく』という対応をしていた。さらに、「子どもの病気に関する日常的な情報の収集」では、公的機関や保健師、母親ネットワークなどの活用が有効なことが示唆された。

(2) 2008 年度の成果

子どもが予防接種を受ける際に母親がどのような説明を行っているかについての調査・分析を実施。母親らは、場面に応じて「子どもへは説明しないという判断」、「目的地（病院）に連れて行くための声かけ」、「子どもを頑張らせるための声かけ」、「子どもの理解力に応じた説明」をしていた。母親がかけていることばの多くが、予防接種を無事に終えるための声かけであり、予防接種の必要性を説くことばや心理的な準備を促すようなことばは少数だった。「子どもの理解力に応じた説明」は 4~5 歳の子どもの対して行われており、母親は体験を通し、子どもが理解できる年齢を見極めていた。

(3) 2009 年度の成果

幼児期の子どもを養育している母親の子どもの健康についての認識、健康づくりのための実践内容と背景を把握することを目的とした調査・分析を継続した。健康な子ども観として「生活する力・暮らしを営む力」

「遊ぶ力」「人とかかわる力」が抽出された。実践では、食に関する内容が多く語られたが、健康観で述べられた「遊ぶ力」に相当する内容は抽出されず、母親の考える健康観と実践に一貫した関係性は見いだせなかった。

研究者間で協議を重ねた結果、これらの調査結果を踏まえ、子どもの主体的な医療参加・健康づくりのためには母親への啓蒙活動も必要と判断。研究成果を、保育士や地域で子育て中の母親に還元するためのシンポジウムを実施した。健康な子どものためのプリパレーションに関する知識の普及を目的とし、病院の受診・予防接種を受ける際に子どもの理解力に応じた説明や、方法を検討するという趣旨で、小児看護、幼児教育、母性看護などの立場から提言を行った。関連病院で実際に行われているプリパレーション内容の展示なども行い、参加者の高い関心を得た。子どもの主体的な医療参加のためのプログラム作成を目指し、現在はツールとしての絵本分析や、子どもに健康な生活習慣を身につけさせるための母親の対応に関する調査結果の分析を進行中である。その成果は、学会発表や、子どもへの健康教育という形での実施を予定している。本研究は 3 年間で完結を見るには至っておらず、今後も継続して取り組んでいく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5 件)

①木内妙子、園田あや、王麗華、子どもの健康に関する母親の認識と健康づくりのための実践に関する研究、群馬パース大学紀要、査読有、第 9 号、3-15、2010

②園田あや、木内妙子、王麗華、子どもの予防接種に際して母親が行う説明に関する研究、日本小児看護学会誌、査読有、8 (1) (通巻 34 号)、15-19、2009

③木内妙子、王麗華、園田あや、城生弘美、大野絢子、子どもの病気に際して母親が行う説明と対応に関する研究-山間部に居住する母親を対象に-、群馬パース大学紀要、査読有、第 6 号、21-34、2008

④木内妙子、王麗華、園田あや、城生弘美、大野絢子、保育士の子どもの健康についての認識と健康づくりのための実践に関する研究、群馬パース大学紀要、査読有、第 5 号、47-57、2007

⑤木内妙子、王麗華、大野絢子、城生弘美、子どもの病気・けがへの保育士の対応に関する研究、群馬パース大学紀要、査読有、第 4 号、69-80、2007

〔学会発表〕(計6件)

- ①木内妙子、王麗華、子どもに健康な生活習慣を身につけさせるための母親の対応に関する研究、日本看護研究学会第36回学術集会、2010年8月21日、岡山
- ②木内妙子、王麗華、園田あや、子どものからだや病気について理解を促すツールとしての絵本に関する研究、日本小児看護学会第20回学術集会、2010年6月26日、神戸
- ③木内妙子、園田あや、王麗華、高崎市において子どもと医療をつなぐシンポジウムを実践して、子どもの療養環境研究会第10回研究発表会、2009年8月2日、愛知
- ④園田あや、木内妙子、王麗華、母親が子どもの受診を判断する要因に関する研究、日本小児看護学会第19回学術集会、2009年7月18日、札幌
- ⑤王麗華、木内妙子、園田あや、子どもの病気に際して母親が行う説明に関する研究、日本小児看護学会第18回学術集会、2008年7月20日、名古屋
- ⑥園田あや、木内妙子、王麗華、子どもの予防接種に際して母親が行う説明に関する研究日本小児看護学会第18回学術集会、2008年7月20日、名古屋

〔その他4件〕

ホームページ等

- ①ホームページ等：現在作成を検討中。コンテンツや管理方法について研究者・メディアの専門家と協議を進めている
- ②2009年12月25日発行月刊赤ちゃん和妈妈-安心できる楽しい育児-1月号、2-3に「子どもにも心の準備を」のタイトルで絵本を用いた母親のプリパレーションについて紹介した記事が掲載される
- ③2009年5月30日朝日新聞朝刊地域(群馬県)の健康・スポーツ欄に写真入りで④のシンポジウムの内容や参加者の様子を伝えた記事が掲載される
- ④2009年4月18日(土)高崎市総合福祉センターたまご(大)ホールにおいてシンポジウム“子どもと医療をつなぐ-あなたは子どもに『うそ』をついていませんか?-子どもを病院嫌いにさせない語りかけの大切さ-”を開催

6. 研究組織

(1)研究代表者

木内 妙子 (KIUCHI TAEKO)
東京工科大学・片柳研究所・教授
研究者番号：50279775

(2)研究分担者

王 麗華 (WANG LIHUA)
群馬パース大学・保健科学部・助教
研究者番号：20438774
(H20~H21:連携研究者)

大野 絢子 (OHNO AYAKO)
群馬パース大学・保健科学部・教授
研究者番号：00251132
(H20~H21:連携研究者)

城生 弘美 (JYOUNOU HIROMI)
群馬パース大学・保健科学部・教授
研究者番号：60247301
(H20:連携研究者)

園田 あや (SONODA AYA)
群馬パース大学・保健科学部・助手
研究者番号：20458475
(H20:連携研究者、H21:研究協力者)